

第 58 号
平成 5 年 3 月

会 報

発 行 北海道高等学校
教育研究会本部事務局

〒064 札幌市中央区旭ヶ丘 6 丁目 5 番 18 号
札幌旭ヶ丘高等学校内
電話 561-1221 番

ご あ い さ つ

北海道高等学校教育研究会

会長 染谷昌志

明るさを増してきた空や、ときに柔らぐ風を通して、春の到来が間近に感じられる頃となりました。会員の皆さまには学年末を迎え、ご多忙の日々をお過しのことと存じます。このたびは、本研究会の30周年記念式典の開催、記念誌の発行など、一連の記念行事とともに、全体集会及び教科別集会が盛会のうちに終了いたすことができました。本会の大きな節目である30周年にあたり、多くの方々からあたたかい激励のお言葉をいただき、またこれからの中会の在り方について貴重なご意見を拝聴いたしました。この歴史の重みのある研究会が、種々の課題を解決しながら、さらに新たな歩みを進めていくことができますように、会員の皆さまをはじめ、関係諸機関・団体のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本大会の全体集会には、講師として京都大学名誉教授の伊東光晴先生をお迎えし、「技術革新の現在と社会の変容」と題してのご講演をいただきました。先生の経済や社会の動向についての鋭く、また明快な分析と、それに基づく力強いご提言に深く感銘いたしました。すぐれた経済学者としての理論の展開とともに、教育について、すでにでき上った答にのみ頼らずに、生命を躍動させる人間教育に向かってほしいという貴重なご示唆をお受けしました。

もうお一人の全体集会講師として、野球評論家の古葉竹識氏に「耐えて勝つ」と題してのご講演をいただきました。試合中はボールと選手の動きの両方から絶対に目を離すことがないということから始まって、チームづくりの要諦や若い選手の心身の育成についての魅力あふれるお話がありました。学校における人間関係や集団づくりについて、多くのことを学ぶことができました。

第2日目の教科別集会におきましても、参加された先生方の熱意により、充実した成果が得られています。お招きした講師の方々のお力添えとともに、提言・助言・司会・記録・運営等に当たられた先生方のご協力と、会場を提供された関係機関のご厚情に感謝申し上げます。

新しい年を迎えて、各学校では新教育課程の編成や行事の検討などを通じて、学校改善への取組を一段と進められることと存じます。その基本方針としては、「基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実」が主要な柱になると思われます。ここでは、基礎・基本の定着と個性教育の推進を総合的に調和させるための、各学校それぞれの「期待される学力のとらえ」が求められます。しかし、こうした学校教育の根幹にかかる課題については、とかく格言の「跳ぶ前に見よ」を守るあまり、考えたり検討したりすることに時間をかけて、実行段階に移りにくい傾向があります。

したがって、具体的な実践の場としては、「あるときは教師主導により基礎・基本を確実に身につけさせ、またあるときは生徒の個性ができるだけ生かすための多様なオプションを用意し、到達目標を自由化するゴールフリーの場を作る」という方策が、より実現しやすいと思われます。つまり、A方式とB方式があれば、その両者のかかわりに緊張感をもたらす中で、「あるときはB方式を意識に入れながらA方式を実践し、またあるときはA方式を意識しながらB方式を実践し、そして調和と統合の方向を探る」という形が、目標だおれのしない、近づきやすい方策であると言えます。また、こうした取組の中でも、学校の内側としての理論構成や効率化に力をかけすぎて、学校外で生まれつつある価値や文化に注目することを忘れてはならないと思われます。

本研究会の記念すべき30周年諸行事と研究大会の開催に、種々ご協力を賜った会員の皆さま、ならびに関係各位に心から感謝申し上げ、これからの中会の充実、発展に期待をかけてごあいさついたします。

第30回研究大会の報告

日程第一日・全体集会

全体講演・午前の部

〔講演要旨〕

技術革新の現在と社会の変容

京都大学名誉教授 伊東 光晴 氏

1980年代は技術革新の時代であった。たとえば、長野県坂城市という小都市には、市場占有率世界第一位の企業が6社あり、その1つは内視鏡をつくる会社であり、国際ファックスと国際宅急便で受注と配達を行っている。現在の日本を支えているのは、こうした無名だが最先端の技術を有した企業であり、IC革命と通信革命がその技術を支えている。

現在通信革命は高度にデジタル化されている。従来の人間の声を波動で伝える方法では一回線で一通話だったものが、コンピューター原理（2進法）の応用で人間の声を高さで計る方法では一回線1000通話、さらに、光ファイバー、光通信による革新により一本で数万通話が可能になってきている。また、光ケーブルにより長距離通信の革新が行なわれ、長距離情報の完全復元が可能になっている。こうして、たとえばATT（アメリカ電信電話会社）は、西海岸と東海岸を結ぶ長距離通話に専念し、他の短距離通信を競争市場にするなど市場の革新も行なわれている。こうした通信革命は「世界」の距離を近くし、たとえば近年の「東欧革命」も、西欧と東欧の距離の短縮が大きく影響しているといふことができる。一方金融市場にも革新が起こっている。たとえば東京六本木のアークヒルズでは最先端のOAを駆使して24時間の国際金融業務が行なわれている。ニューヨーク、ロンドンといった他の金融市場との距離がますます近くなり、分単位百数十万円の差益が生まれ出されている。

もう一方の技術革新の軸になったのはIC革命である。トランジスタに変わりICが登場したのは1959年で、最初日本では電卓需要として普及した。それがアメリカへ波及したのである。昭和50年代には集積回路、60年代には超LSIが登場した。たとえばこの技術をNECはパーソナルコンピューターにつぎこみ、富士通は産業ロボットにつぎこんだ。これらの技術は時計にも数値制御自動旋盤として用いられ、日本はドイツの技術を凌駕するほどになった。ところで、共産圏はこれらの先端技術を「ココム規

制」で受容できず、技術的な立ち遅れが経済的立ち遅れを招來したと考えることができる。

さて今日の日本は、こうした先端技術を駆使した多品種少量生産を可能にしている。たとえば自動車産業においては汎用は30%，特注が70%となっている。安くて丈夫で長持ちという本来の機能とちがつた、自分の個性に合う特注品を今の日本人は求めている。こうした生産は「虚業」ともいえるが、今や「虚業」なくして日本の産業は成り立たなくなっている。しかし、自動車産業は実は日本の最先端産業ということはできない。日本の最先端の産業はたとえば大分県別府市にあるハンディキャッパーを使用したオムロンの工場である。そこではハンディキャッパーの残存能力をコンピューターが調べ、それを充分に発揮する障害者の自立システムができている。技術革新が福祉と結びつき、単に再配分の問題ではなく、生存権に立脚した産業のあり方が模索されている。技術革新の最先端とは、こうした、技術を人間のためにつくりかえ、社会のあり方を変えさせるものでなければならない。



全体講演・午後の部

〔講演要旨〕

耐えて勝つ

野球評論家 古葉 竹識 氏

31年間の野球生活で狭い世界しか知らない人間だが、「この選手達をクビにならぬようするにはどうしなければいけないか」と、いつも考えていた。

監督時代、「お前はどうしてベンチの隅にばかりいるのか」と言われたが、あそこが一番便利な所で、キャッチャーの立場で全体を見る事ができる。私は「常に集中力を持って決してボールから目を離すな。どんな展開になっても最後まで捨てるな」と言ってきた。ベンチには25人の選手が入る。監督は25倍の集中力で観察しなければならない。つまらないミスをすると隅に呼んで注意する。終了後や翌日に、文句は絶対言わない。すべて試合中に話合って納得するようにした。攻守交替の時に、どんなことでも決して見逃さないで注意した。注意すれば選手は一所懸命になる。

昭和50年、長島巨人を破って129試合目で初優勝したが、衣笠や高橋慶彦ら内野手の協力が大きかった。相手監督の動きをよく見てベンチに教えてくれた。それで勝った試合が4~5試合はあったと思う。大洋時代に中日の落合にはよくサインを見破られた。彼は相手ベンチの動きを実によく観察している。南海時代お世話になったヤクルトの野村さんは相手投手の癖や細かいデータを皆に教えてくれた。山本浩二でも衣笠でも、良い選手は皆相手投手の癖を見抜

く力がすばらしい。

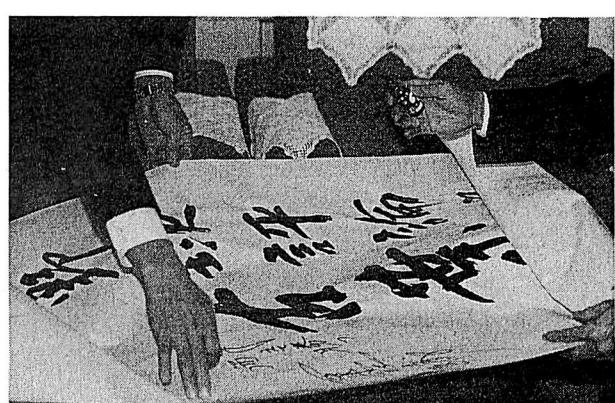
大洋へ行って、過去10年間のドラフト1・2位の一軍選手が、ヒゲの斎藤と中山以外いなかったのでびっくりした。(広島には10人近くいた)有力選手がしっかり育っていないかったのが、大洋のチーム作りが遅れた原因だと思う。

プロ野球は60人の枠があり、チームに協力できずにトレードされたり、力不足なら仕方ないが、体を痛めてやめるような悔いが残らないようにしてやりたい。高校野球を指導する人は、肩や肘を痛めるようなことをさせないでほしい。高校生で無茶をすると殆どプロで通用しない。甲子園で腕が折れても投げぬくというのは純粋な気持だろうが、それは間違っている。預かった子供達を故障させずに一人前にしてやるのは、教育者も同じだと思う。

最近は子供達にアルバイトなどをどんどんやらせるのが、早く自立させるのに良いように言うが、親も子も自分勝手になって家庭崩壊に繋がってはいないか。まずきっちりした物心がつかないと駄目ではないかと思う。

私には三人の息子がいるが、健康管理を第一に育ててきた。みんなが一つになって協力しなければ良いチームはできない。家庭も同じで、兄弟皆が長く付合ってゆけるような嫁さんを見付けるよう話している。

札幌には古葉会もあり、毎年何回か来ている。ぜひドーム球場を作って、プロ球団を作ってほしい。そして私を呼んで下さい。



日程第二日・部会別集会

国語部会

[講演要旨]

日本人の心ことば

東京工業大学名誉教授 芳賀 紗氏

「所変われば品変わる」と言うように、人間の生き方暮らし方は、どの地域を生活の空間にしているかによって違う。この生活様式の違いは薄れてゆくことがあっても消滅することなく、区切られた空間の中で伝統的に無意識に養われ続けてきたのである。

無意識のうちに身に附いているその社会ごとの習慣意識や行動様式は「心理的構造」と名付けられている。そして、それを共通にしている社会を文化共同体と呼ぶことができる。日本の場合は文化共同体と言語共同体がほぼ一致している。つまり日本人は日本語を使って暮らしてきた。そういう点では非常に単純で、シンプルな関係が成り立っている。このような心理的構造を持ち、言語を以って使い、これらが総合されて「日本人らしさ」が成立する。

民族の生き方・暮らし方のパターンと、使っている言語の関係について、文化人類学者は「言語は文化の乗り物」・「単語は文化の索引」と言っている。ベネディクトが「菊と刀」の中で指摘した「恥・義理・恩・世間」などは、日本人を読み解くキー概念になる単語だった。また、土居健郎氏も「甘え」とか「遠慮」等、様々な「日本人らしさ」を表すキーワードを述べている。こういう幾つかの特徴的な単語が存在することと存在しないこと（その語の観念がないということ）が、その民族らしさを描きあげていくための大変な材料となる。ただ、言語は「現実・実際を反映する」面と、意識や行動に関係なく言語自身の論理で組み立てられる「自律的性格」の面があることを注意する必要はある。

日本語の単語を文化の索引にした時に描ける日本人の姿（「日本人らしさ」）について三つの側面を挙げると、一つは「日本人の自然感」である。日本人は無意識に自然と共感している面があり、自然と一緒に安心感を持ち、様々な部分に自然をあしらおうとするのである。童謡や歌舞伎、酒・菓子・列車の名称などといったものに表れている。

二つ目は「対人意識・社会認識」で、社会生活・社会構造が人の関心を基に、あるいは人に対して気遣い・気配り・気兼ねをするという対人関係にさいなまれている面である。

三つ目は「事物認識」である。物事をぎりぎりまで分析せず、心情を大事にする面である。論理を優

先すべき場合と情緒を優先すべき場合のけじめをつけないといけない。以上の三点は、日本語を通して文化を考える大切な面である。

そして更に付け加えて、日本人の生活の中における言語の位置付けに触れて言うと、文学の面でことばを讀えるという観念があり、また、風流の精神でことばを生かすということを行ってきた。しかし、事実を正確に伝達するとか論理を展開するといったことになると、欠ける面があると考えられてきた。

すべてのことばに力があり、魂があり命があるという価値観を今一度かみしめて、そこから再出発すべきかと思う。

[研究発表]

高教研二日目の教科部会では、三名の先生の研究発表が行われた。

旭川東高校の伊藤美德先生の「論理的な文章の読み方を学び、理解力向上を目指した一指導」では、理論的文章を構造化して読み解いてゆく試みについて発表された。教科書の評論文と共に、適宜大学入試問題文を教材化し、プリント・OHP・生徒による板書活動などを通して、キーワード、キーセンテンスによる論理構成の把握、要約へと至る実践であった。

芦別高校の清澤智克先生の「新教育課程『古典講読』に向けて」では、4単位の「古典」の時間に、教科書による指導と並行して、一日一段を原則に『伊勢物語』全編を読破してゆくという実践例が報告された。生徒の興味を喚起し、持続させるために、ひらがな文を漢字まじり文にすることや、作中人物への手紙等、様々な角度からの工夫が報告された。

札幌稻西高校の宮下祐司先生の「生徒と共に省る国語の授業」では、「授業診断表」によって、教師と生徒が共に授業に対する心構えを充実させ、自らの授業に対する姿勢・意識を振り返るという試みが報告された。プレテスト・確認テストによる理解度の把握と合わせてデータとして分析し、その結果のすばやいフィードバックによって、授業に対する知的興味のみならず、教師と生徒との人間理解にもつながる実践であった。

研究発表に対する活発な質疑応答がなされた後、二名の助言者からの助言があった。

後志教育局の秋田松年指導主事からは、三人の先生方に共通していた点として、学習意欲の喚起と、生徒の実態把握に努めている姿勢と熱意について評価された。何のために、どのような力をつけさせる

かが出発点であり、生徒と共に学ぼうとする姿勢を持ち続けて実践にあたるべきであると参加者全員に向けて助言された。

留萌教育局の石橋武志指導主事からは、教材への情熱と、生徒との信頼関係を大切にした、国語嫌いをつくらないような指導として評価された。最後に、参加された先生方に、特色ある学校としての魅力ある実践をより深めていくための本研究集会の活性化と、問題意識とロマンを持ち続けるべきことを述べられた。

社会部会

全体部会

〔講演要旨〕

最近の高等教育にみる“勝ち残り”戦略と戦術

— “勝ち残り”戦略、設置基準の弾力化、

入学者選抜法、序列変化、そして

受験生の意識変化への対応—

旺文社専務取締役 代田 恭之氏

1. 高等教育機関も“勝ち残り”戦略展開中

いよいよ18歳人口の急減期へ突入してきた。まさに、これからは大学・短大にとって氷河期である。試算上では、平成12年には、大学・短大の合格率が8割を超える定員に満たない大学や入試の成立しない大学が続出することとなる。大学・短大は、“学生を選ぶ”時代から“学生に選ばれる”時代への対応を余儀なくされ、今まさに、“勝ち残り”をかけて必死のリストラを展開しているのである。大学・短大が変われば、当然、高校教育も変わらざるを得ない。高校教員は、各大学・短大の“勝ち残り”戦略を把握し、それにもとづいた進路指導をする必要がある。

この氷河期を迎えるにあたり、これまで高等教育を規制してきた大学設置基準も大幅に緩和された。各大学・短大は、自己点検・評価を実施し、入試制度、カリキュラム編成、学部・学科の再編成に着手しつつある。

2. 大学改革と進路指導の新しい留意点

大学設置基準の大幅緩和=大網化によって、一般教養と専門教育の枠がとり払われ、多くの大学では、教養部が廃止されつつある。このような現状を前にしているにもかかわらず、高校現場での進路指導は、従来と殆ど変化がない。従来の一般教養が廃止されるということは、大学入学と同時に専門教育が開始されるということ。この辺を生徒に認識させ、高校教育での入試科目以外の授業の重視を指導していく必要がある。また、学部・学科名が細分化かつ専門化してくるので、自分の将来の生き方あり方を考え

させるところからの進路指導が求められてくる。目的意識を明確化させ、それまでの“入れる”大学の指導から、“学びたい”“入りたい”大学・学部の進学指導が必要となってくるのである。

3. 平成5年以降の受験戦線の変化

受験生急増による大学総難化は終焉し、受験地図のぬりえは必至の情勢。受験シナリオも、それまでの“安全”から“挑戦”へと書きかえるべき。国立大は分離分割が主流となり、国私間のボーダレス化が一層進み、入選法の多様化が進展する。さらに、女子の進学率がアップすることが予想され、それに対応した進学指導の確立も今後の大きな課題と言える。

4. 受験生の心性変化

受験生急増期の安全志向シナリオによる進路指導によって、現代受験生は“RENTAL シンドローム”に陥っている。つまり、危険回避、省力、高貴、無目標、快適さ、外見と環境がキーコンセプトとなっている。今こそ、真の進路指導に立ちかえり、子供の心性に立志を取り戻させたいと思っている。

現代社会部会

〔講演要旨〕

森からのおくりもの

北海道大学名誉教授 川瀬 清 氏

環境問題の今日的課題として、最近特に話題になっている『きれいな空気』・『豊かで涸れない水』などの問題を考える際に、森林の存在が非常に大きな意味を持つ。環境問題というものは、本来は“give and take”的な関係でなくてはならないのだが、人間は環境から与えられる一方で、takeの部分を忘れていた。これから自然に対する人間の対応は、このtakeの部分においてどのように行動していくかにかかっている。

私たちは、アマゾンやシベリアなどを例にして環境破壊を語るが、現地に住む人々の“生活”への視点を持って考えたり、日本での“リゾート開発”によって貴重な国有林の伐採が行われていることなど自分たちの足元の問題から問いかね直し、『自分たちのできることをまずやろう』という“行動”こそが求められているのではないだろうか。『森は豊かな心を育てる』というが、現在の日本の風潮のように“力さえあれば”では豊かな心は育たない。私は、幌加内や朱鞠内などでササを漉いて卒業証書を作製したり、環境整備に協力したりと様々な実践を重ねてきたが、それらを通して高校教育というものは、◎あくまで生徒が中心でなければならない。◎教師は自信を持っ

て生活すべきである、という思いを強くするとともに、『環境問題は人間問題である』という認識を持ち、さまざまな観点からの徹底した議論が必要であると考える。

[研究発表]

「食」の視点で環境問題を考える

=ハムの食品添加物を扱った授業実践=

大麻 荘司 信一

環境問題の重要性が大きくクローズアップされているなかで、「地球にやさしい」を「地球上の人間を含めた生き物にやさしい」自然のありようと読みかえて考え、『食べる』ことに着目して食品添加物の問題をとりあげ、生徒自身が自ら考え行動する授業の実践報告。

[研究発表]

環境問題への取り組みと発展的学習について

=ボランティア活動と社会見学の

体験を通しての環境問題への理解と

現代社会との関連について=

留萌 壇 浩伸

留萌高校定時制課程では『環境問題』の理解に積極的に取り組んでいる。特に自分たちの住むマチ・留萌のゴミ処理、リサイクル問題などについて、プリント学習→ボランティア活動→社会見学→廃品回収。リサイクルと4 Stepに分け段階的に指導している。

助言者の石井勝氏（道研）より研發への講評と、今後の現代社会の展望など貴重なご助言があった。

日本史部会

[講演要旨]

「北海道議会開設運動の研究」

札幌学院大学教授 船津 功 氏

1. 北海道議会開設までの運動の状況

この運動の研究は、当時の新聞による研究が中心で、運動は函館・札幌・小樽を中心に発生し、中止していた時期もあったが、中心者は「価値観」を持ち近代化を目指した。

2. 近代化に必要な要素について

大塚久雄氏は著書の中で、近代的人間類型における諸特質として、6つの要素を提示し①自発性②合理性③社会連帯性への自覚④勤労⑤質素⑥周到の6つを身につけている人が近代の生産力に値していくと述べている。

3. 道議会開設運動の展開

この開設運動は、12人が中心となって自主的に協議会を開き、運動を展開していった。①「組織化」②「自発性」③「民主性」の3つの要素を実行に移し、他県議会以上の権限を要求したが、その要求は全く認められず、他県議会以下の権限の議会におさえられてしまう。新興商人が中心となり、「カンパ」により運動が進められるという積極的な側面を持つ反面、「有産者賛成思想」に基づいているという欠点もあった。

4. 日本史の中の道議会開設運動の位置づけ

この運動の担い手は都市小ブルジョアやインテリで、近代国家形成時における「自治」と「参政権」を求める運動と位置づけられ、時期はズれるが、自由民権運動に一番近い北海道の運動ということができよう。

[研究発表]

日本史における仮説実験授業の実践

平取 池田 毅司

仮説実験授業を授業の中に取り入れるきっかけとなったのは、教科書通りの授業では、生徒の反応があまり良くなかったことです。たまたま、板倉聖宣氏の仮説実験授業と出会い、取り入れてみたところ、この授業に生徒が大変興味を示したのです。

仮説実験学習の研究をしている組織は全国的にあり、北海道にもサークルがあって、それに支えられながら授業を行ってきました。

その内容ですが、「授業書」と呼んでいる専門のテキストを用いて、その本の流れの通りに授業を行っていきます。その際、とばしたり、内容を補足したりせず、本の通り授業を進めていくのです。この本の構成は、問題・予想・結論と非常にワンパターンなものですが、どの生徒にも興味を持たせることができるという意図のもとに作られています。問題には選択肢があり、予想を生徒にもらい、集計して、最後に答を出していくという流れであり、これが実験という言葉のもつ意味です。

世界史部会

[講演要旨]

ソ連邦崩壊と民族問題

～歴史とアジアの覚醒～

札幌市立高等専門学校助教授 西山 克典氏

民族問題は、近代国家が登場し、それが大きな力をもってくる中で生じてきた。

20世紀初頭のロシア帝国は、大英帝国に次ぐ広大な領域を支配しており、アジア部分がその3/4を

占めていた。しかし、人口比ではアジア部分は2割に満たず、アジア系諸民族は帝国の中で「異族人」として身分的に位置づけられ、「单一不可分のロシア」という、公的イデオロギーのもと、ロシア化され帝国に役立つべく文明化されるべき遅れた地域であった。

1916年から1924年にかけて、第一次大戦・革命を背景として、アジア系諸民族は初めて、自分達の解放と自立を求める動きを開始した。が、革命後臨時政府は、「民族差別撤廃」の法律を出すも、「民族自決」「分離」は認めなかった。その後、ソビエト政権と民族自決をめぐって対決していくのが、内戦後再び、後進的民族としてソ連邦の枠内に組み込まれ、民族運動は収束されることとなる。「社会主义」のもとでも民族問題は解決されず、とりわけ少数民族に大きな犠牲（同化、強制移住等）が強いられていくのである。

1985年以降、ペレストロイカ、ソ連邦崩壊の動きの中で、民族解放運動は再燃した。タタール共和国等のロシア連邦加盟拒否、イスラム教・ラマ教復興、北方諸民族の資源活用等アジア系諸民族の解放運動は、その地域を「危険な三角地帯」とする可能性を含みつつも、宗教、民族を超えた新しい質の民主主義、経済秩序、平和を模索していくべきことを提起している。

[研究発表]

異文化摂取の形

～鎖国日本からの贈りもの～

遠軽 華輪 健治

19世紀後半、西洋画の世界において、伝統的な透視図法や遠近法、明暗法などの表現技術は頂点に達し、行き詰ってしまった。それを打破したのが、異文化である日本の浮世絵版画との出会いであった。ティツィアーノ、マネ、ドガ、ロートレックらは、浮世絵の画法を取り入れて、新しい西洋画を描いた。しかし、西洋画の伝統を捨てたのではなく、補強するために使ったのであり、伝統は残った。

同じ頃、日本人画家も西洋画法の吸收に全力をあげた。日本人が西洋画法を取り入れた時、日本画の伝統はほとんど消えてしまった。

以上について、36枚のスライドを映し、西洋画と日本画の一文化論として、発表された。

授業でも、これらのスライドを用いて、生徒に考えさせる実践を行っている。また、留学生の目から見た日本画の感想も交えている。

単に知識としての文化史ではなく、思考力を育て、国際人としての豊かな教養を養う、生きた文化史の

授業実践として、多くのご示唆をいただいた。

地理部会

[研究発表]

(1)地理における作業学習の取り組み

～イメージ・トリップの実践例～

浜頓別 山野寺 彰

イメージ・トリップとは、「空想旅行」「机上旅行」のことである。

浜頓別高校では、3年時に地理を必修科目としている。なんとか3学期の授業に活気をあたえることができないか、生徒が持っている地域や国に関する興味・関心をうまく引き出せないかななどという問題に対し、提案されたのが、イメージ・トリップであった。

11月上旬に、実施要項を配付し、それに従って生徒に説明を行う。1クラスを6～7班に分け、リーダーを決定する。旅行日程は7～10日とし、一人一都市・地域・国を責任を持って担当し、班員を引率できるように具体的に計画させる。旅行に必要な資料は、各国大使館・政府観光局に送付を依頼する。生徒は、実施要項・調査要項プリントにしたがって、放課後や冬休みも使いながら、自主的に作業を進めている。今年は、長さ・距離・料金などの数字を用いて、読み手に旅行先の具体的なイメージをわからせるような点に配慮しながらまとめさせた。

生徒に発表の機会を与え、成就感や自信をもつともたせたほうがよいのではないか、評価を今以上成績に反映させたほうがよいのではないかという意見があった。

(2)地域研究

～身近な地域の教材化～

札幌丘珠 岡積 義雄

自然分野の学習は、用語羅列型の授業に陥りやすく、生徒にとても理解しづらい分野である。そこで生活に密着している丘珠の地形を用いて教えようと考え、今回のテーマを設定した。

生徒に丘珠の自然地形の形成史を教え、河川の氾濫が貴重な鍵を握っていることに気づかせた。具体的な例として、昭和56年におきた石狩川の氾濫を取り上げた。

当時の気象条件を調べ、北海道に大雨をもたらすパターンを確認した。白地図を用いて丘珠の形成史を学習させ、過去の地形をイメージさせた。56年の石狩川の氾濫について、自分の親に浸水地域の分布・被害状況の聞き取り調査をさせ、浸水実績図を

作成させた。これにより、自然堤防・水防の果している役割など、教科書だけではわからないような内容が浮び上がってきた。生徒は洪水の起こるパターンと放水路の問題を深く理解できたようである。

今後の課題としては、中学校との学習内容の関連性をより高めること、巡査を行い学習した地域を生徒自身の目で確認させてみたいと考えている。

もっと時間をかけてもよい内容であると思う。これから課題も考えさせる必要があるのではないかという意見があった。

倫理部会

倫理部会は「社会科における今日的課題」というテーマに沿い、北海道大学工学部の堤耀広教授から「環境にやさしいプラスチック」についての講演をしていただいた。高分子素材には天然高分子（天然に存在）とプラスチック（人工的に産出）の2種類があり、ここで問題になるのは容易に分解しない後者で、1988年に約1000万t生産され、そのうち約460万tが再利用されず廃棄されているという。リサイクルを強制する法律がない現状で、如何にプラスチックを処理し再利用するかが講演の中心であったが、今日、生活の隅々まで浸透している多様なプラスチックに対しきめ細かい対策をとらなければならない事を痛感させられた。リサイクル推進に必要なことは、(1)社会面から効率的な回収・運搬を可能とするシステムの整備、(2)技術面から経済的かつ高精度の分別・精製・処理技術の開発、(3)コスト・用途の開拓面（最大の課題）から多額の費用がかかり性能劣化は避け難いが、今後の大きな研究事項である事等を教えていただいた。また、新しい発想の下、「自然に還るプラスチック」という視点から、バイオテクノロジーを利用した微生物によって分解されるプラスチック、自然に対して負荷を与えないプラスチックの研究開発についてもお話をいただいたが、現状では生産・再利用の双方についてもコストと処理するために生じる新たな環境汚染が問題である事も明らかにされた。工学の門外漢である我々にも大変分かりやすく、専門家からの貴重なお話を伺える大変よい機会であった。

引き続き、歌志内高校の松原宏先生が「新教育課程における「倫理の教材=現代の家族=」という研究発表をされた。「倫理」の新教育課程では「人間の在りかた生きかた」について自覚を深めることが重要な狙いとされているが、先生は普段見過しがちな家族について生徒の能動的な家族観の再構成を目的として、

- (1)戦前の「家制度」と戦後の「核家族」について。
- (2)結婚・夫婦別姓を考える。
- (3)高齢化社会と家族。

について取り上げ授業をされた。戦前の「家制度」から「核家族化」への変化の中で、父権の喪失やそれに起因する家族の崩壊・DINKS や DEWKS などの新しい家族の形態が生じており、さらに、現婚姻・戸籍制度に疑問を感じ、真に平等な男女関係のあり方を求める、「事実婚」などの新しい結婚観も現れないと生徒に問題提起をされる。そして、このような動きの中で、高齢化が急速に進行する日本で、老人とどのように関わるのか、自分がどのように老いてゆくべきなのかを考えさせ、人間として如何に生きるかを考える手がかりを与えたいと述べられた。

質疑・意見交換では「現状における倫理での課題・問題点は何か」「新課程における倫理の課題は何か」等について話し合われた。

工業部会

〔講演要旨〕

工業教育に期待するもの

デービーソフト株式会社代表取締役社長

古谷 貞行氏

自分自身の価値観は中学校時代に始まった。当時壊れかけたラジオを直して船舶無線を受信し、その感動が自分の新たな夢を持つきっかけになっている。会社に入ってアメリカに渡り、今までとは違った価値観の社会を経験した。自分の人生を改めて問い直し、故郷の北海道を発信基地として自分自身を高めようと考え、デービーソフトという会社を発足させた。

感性を高め、いろいろと人間づくりをしていく為には、人そのものの豊かさをつくり出す環境なり場が必要であり、そこから出てくるキーワードは「美・感・遊・創」すなわちバランス感覚である。

自分達の北海道に自分達の手で自分達の豊かさをつくる。今までの日本の価値観から新しい価値観を持った人間をつくる。自己実現こそが新たな価値観を創造する。我々がやっていることはプロトタイプづくりである。

会社の理念は「創造哲学を持って人を創る」であり、企業というよりは塾と考えている。古谷塾の卒業生が将来北海道の魅力をつくる大きな意味での起爆材になってほしい。そのためにも、ものづくりの本来的な美しさを教え続けていき、それを通しての人づくりをしていきたいと考えている。

本校における新教育課程への取り組み

苦小牧工業 辻村 時男

本格的な教育課程の編成に向けて組織的に取り組みはじめたのは平成2年度からである。この年は各種答申の研修会を頻繁に行い、また7科一斉に「課題研究」の試行にはいった。平成3年度は教育目標の策定を行ない、平成4年度には履修・修得、類型設定・科目選択、特別活動のあり方などの検討を行って教育課程表の骨子が完成した。

本校機械科における「家庭一般」の実践例

紋別南 高橋 豪・前川 睦

本校では平成6年度入学生から「家庭一般」4単位を2年生で2単位、3年生で2単位履修させることに決定した。早期取り組みの主旨のもと、平成4年度機械科入学の1年生に対して2単位の試行を行なっている。家政科が併置されていることから、指導は家庭科教員3名が行っている。その授業内容の紹介と今後の課題等について発表があった。

地域社会との協力・連携による体験的な学習指導

北見工業 常包 省三・小杉 光史

平成4年度、本校電気科では「課題研究」の試行を意図し、「現場実習」を実施した。3年生が6月中旬の5日間、20社の企業に分かれて行った。日常の学習の大切さ・大人たちの真剣な取り組みを知ることができた。企業はじめ大人たちすべてが先生であることがわかった。進路決定による影響を受けたなど成果をあげることができた。

政治・経済部会

〔講演要旨〕

国内政治の現状と課題

東大大学院教授 佐々木 毅氏

講演は、テーマ1「現在の政治腐敗について」。テーマ2「政党全体の衰弱について」。テーマ3「政治の求心力の正常化」を柱に『現在の政治現状を教育問題としてどのようにとらえるか』ということであった。

テーマ1では、責任のない人（党執行部）が権力を持っていることが根本的な問題であり、それが金権政治につながっている。政権交替による権力と責任の再確認が必要ではなかろうか。ということであった。

テーマ2、しかし、現状では政権交替は無理である。なぜなら政治が政権交替のルールを確立していないという歴史を①戦後～55年体制。②60年安保

～85年。③85～の3期に分けて解説された。外圧の強い第3期の諸問題を第2期に確立した金帰課田で当選した人達による国対政治で解決することは不可能である。そこが自民党の弱体化イコール野党の弱体化につながった。ということであった。

テーマ3、現情を開拓するためには、金による救心力ではなく、制度で救心力を作るべき。法律による改革。場合によっては内閣制のスクラップ（改憲）も必要ではないであろうか、誰もやめなくてすむ政治をなんとかしなくては、ということであった。

質疑応答では、新党勢力について。外圧について。国民と金のつながりについて、3つの質疑応答がおこなわれた。

〔研究発表〕

国際化社会における日本のあり方を考える

～地域の特質を生かした北方領土問題

からのアプローチ～
別海 巍 和義

『国際化社会』を生徒に具体的に理解させるために、北方四島の一つである国後島が肉眼で見え、また一部の生徒の父母・祖父母が北方領土の元島民であるという地域の特質を生かし、「国際化社会における日本のあり方」を北方領土問題からアプローチした授業実践についての発表であった。

まず初めに、生徒に北方領土に関するアンケートを実施して領土問題や日ロ関係について問題を提起し、次に北方領土の歴史を授業で扱い、それらを土台に各班ごとに「ビザなし渡航」、「だ捕の実態」などのテーマに関する班学習を取り入れた。発表では、生徒が実際に町役場やだ捕されたことのある父兄を訪ね、そこで聞いた話や自分達で調べたことをまとめたレポート、授業を受けての生徒の感想などが紹介された。

研究発表の後、活発な質疑応答がなされ、最後に助言者の板東先生（胆振教育局）から、考え込む授業から自ら学び考えさせる授業への転換が見られたことやいろいろ調査をさせていることなどから、子どもたちはこの授業を通して日本のおかれている立場を理解し、国際的問題に対する有効な対策、解決法を探ろうとする心がまえができるのではないか、という講評をいただいた。

数学部会

〔講演要旨〕

数と図形の科学～詩人の心をもとう～

学習院大学教授 飯高 茂氏

説明器材の遅延により、前半は演題とは離れるが、最近の話題が紹介された。

1. 宮中茶話会での皇族とのエピソード。数学オリンピック事情。

2. 新指導要領に関する大学入試の展望

①センター入試は数学ⅠⅡⅢ+Aから出題の予定で、ⅠとAではAにウエイトを置かざるを得ない。2次試験はCに重点という考え方がある。私大では、非公式だが、理工系でⅠⅡⅢ+A(数式・数列)+B(複素数)+C(行列)となると思われる。

②A+Bのコンピュータ教材は、センター入試で出題されることになるが、言語を用いたプログラムの問題とアルゴリズム重視の問題のどちらかになるかはとも言えない。

3. コンピューター教育について、その基本はプログラムを作る中で数学の面白さを実感させるところにある。指導者はプログラムを作らないのが建前である。

4. プログラムを用いて数・図形の問題の解き方を紹介する。

①アメリカの教科書の問題から不定方程式の解法。
②素数分母の循環小数展開の興味ある性質数のもう規則性と美しさがある。
③高次関数、都市計画曲線のグラフを描く。

[研究発表]

① 熊石 大沼 博史

「本校における学力向上のための取り組み」

新任から8年間、授業不成立の状態から、授業中の学習・生活指導を通していかにして改善への道を見出したかの実践記録を紹介。

② 池田 播 良夫

「アメリカと比べながら」

アメリカの教育事情を、その抱える問題点や合理性にも触れながら報告。

③ 札幌啓成 中西 勝範

「マニュアル時代の自己教育力の育成」

生徒に限らず、日常や学校生活に見る現代人の気質に対する辛口な問題提起。

④ 帯広緑陽 関谷 浩則

「学習意欲を喚起する数学IIIの指導内容の構成について」

数学IIIの指導計画案を、現地調達の観点から他との関連を内容構造図に整理し、さらに到達目標までを設定した研究の紹介。

[助言] 上山・中村

①研究発表はいずれも個性的で内容もバラエティに富んでいた。

②総括として次の点をあげておきたい。新要領に関わっては、国立文系志望に対する指導内容をどうするか、すべての学校で最低数Ⅰ+ⅡⅢ程度の内容は必要ではないか、というのが今後の課題である。また、数学的な見方の良さを認識させる教育をして行く努力は今後も進めて行きたいと考えている。

理科部会

理科全体部会

[講演要旨]

STS教育は理科教育を変えられるか

茨城大学助教授 小川 正賢氏

STSはScience Technolozy and Societyの略であり、科学・技術・社会の間の相互作用を現代社会の本質と見て、この枠組みの中で研究・教育活動を考えていくことである。しかしこのSTSはあくまでも枠組みであり、アプローチの仕方や細かい所は多種多様である。他人のものをそのまま受け止めるのではなく、各自の生活・教育活動に根差した形で考えていくものである。

STS教育の中では、科学教育の一つの方法として「STS問題を通して科学を教えていく」というのが主流である。一方、価値観を重視し、狭義の科学教育の枠にとらわれない見方もあり、私はこの立場である。

STS教育の広がっていった背景について考えてみると、科学技術者養成教育への反発や、児童生徒の科学離れ、科学技術が生み出す社会問題の発生などがあげられよう。

STS教育の目的は、一般市民が必要な科学技術的な素養を身につけることだが、そのためには、①科学・技術・社会の相互作用への意識を高め、②多様な方向から観るために知識を得て、③自分の意志を決定すること、この3つがSTS教育の具体的目標である。

STSの実践例をみてみよう。まずアメリカの例だが、「ニッケル精錬工場の排ガスが原因の酸性雨による湖水汚染が生じたため、工場の排ガスを法的規制しようとしたが、工場では規制をクリアする資金がないため、工場は閉鎖、従業員は失業となる」という場面に対し、①自分が法律を作る立場なら、何を調べるか、判断をする時のキーポイントは何かを討論させたり、②様々な立場の人々に役割を分担し、各グループに自分達の論理を組ませて討議させる、

というものである。日本でも物理を中心に行われているが、生物では「羊水穿刺」で高齢初産の夫婦の葛藤を考えるもの、地学では「濃尾地震」を例に、人々や科学者の対応を考えるものがある。これは雲仙や、道内の火山に置きかえても使える。STS教育の特徴として以上の通り通常の理科では使わない方法を使うことがある。

私はSTS教育は価値観教育だと思う。これは様々な価値観を各自で分析し、自分の納得できる価値感を確立させることである。

実施の方法としては、従来の理科の中で扱う方法の他、IA科目での取り組みが考えられるが、扱い方の制限や採択の点で難がある。また、他教科や教科を超えた取り組みもできる。ただしSTS教育を実施するには国語・英語でコミュニケーション技術を身につけておく必要がある。

余談だが、受験校ではSTSに興味を示さないようだが大学入試の小論文では結構出題されており、これへの指導は必要であろう。

STSを実施するには、自分の考えを持つと同時に、地元で情報交換の場を作るとよい。

理科I・II部会

主題：理科I・IIの指導法はいかにあるべきか

〔講演要旨〕

STS授業に関する海外資料の紹介

茨城大学教育学部助教授 小川 正賢氏

午前中の全体講演に引き継ぎ、STSの海外資料の提示や、アメリカに於けるSTS運動の背景及びカナダにおける実践上の問題点、日本での実践例などが紹介された。

〔研究発表〕

①理科I・化学分野における実験の基本的技能の習得を目指したVTR教材の作成

中札内 永木 正彦

理I化学分野や選択化学で最低必要な実験操作が出来る生徒と出来ない生徒のデコボコをなくす為、教科書より抽出した14項目についてビデオ教材（ビデオ・ワークシート・評価問題）を作成。1年生対象に3学期を使い、今後更に改善していく。

②STSと理科教育その問題点

=エイズで学ぶ分子遺伝学=

札新川 児玉 昌平

STS(Science, Technolozy, Societyの略)は今や

世界的傾向である生徒の理科離れをくい止めようと、今や米国を中心全世界的な運動になっている。今回発生的にはSTSの考え方方に近いテーマとして「エイズで学ぶ遺伝学」の具体的カリキュラム（NHK特集ビデオ、参考文献を読む、エイズに関し生徒に書かせた漫画、科学史を学ぶなど）を作り、それを実施させた。STSは理科教育の現状打破の入口である。

③博物館など、教室以外の施設を利用した理科の指導について

旭川西 平松 和彦

理I・IIがH6年度よりなくなり総合科学的教え方が難しくなるが、週5日制を利用して、学校外の教育施設を活用することにより、かなり補充出来るのではないだろうか。実例として、名寄郷土資料室、道北博物館巡回展、米国マサチューセッツ州スプリングフィールドの図書館、博物館の生きた活用紹介があった。

④自然保全度測定方法を研究してみる

=空知中央の植物を中心として=

岩高養護 合田 勇太郎

空知中央（岩見沢・美唄・三笠・栗沢・月形）の単子葉植物の在来種定着度（定着度大=保全度大）からそれぞれの地域の保全度を調べ、又校地内、雑木林の自然道についても生徒と共に調査した。植生からも環境保全がわかるなどを生徒に教えることが出来た。

〔助言〕

道教委 一口 芳勝氏

4研発個々について、STSテーマの先見性など。その他：新カリへの疑問視、STS北海道を作りたい等の意見あり。

物理部会

〔講演要旨〕

原子力発電の安全性

北海道大学工学部原子工学科教授 石川 迪夫 氏

原子力発電の安全対策は、ここ数十年間の科学技術の進歩により、目覚ましく向上している。安全を確保するシステムは多種多様であり、概略を説明するところのとおりである。

1. 設計において

設備は他産業と比較して2桁位安全に設計・製作されており、異常発生に対する対策も三重・四重にとられている。

2. 製作において

故障等の防止のため、部品の製作にあたっては設計思想はもとより、材質管理、製品の品質管理は非常に厳密である。成分組成証明書が付いた特注品である。

3. 運転管理

10年近い年月をかけて技術者を養成し、各種の試験に合格した者だけが配置されている。非常に高度の技術者集団である。

4. 放射性物質の管理

システム的に放射能もれに対する管理は万全の対策がなされており、発電所内に於ける放射線レベルは食品に含まれる量と同等のレベルである。

〔研究発表〕

(1)パソコンによる計測装置の作成

根室 高橋 尚紀

市販の製品は非常に高価であるが、自作すると安価でできる。コンピューターの特性を活かした計測装置と実験の研究を今後とも重ねたい。生徒も強い興味を示してくれるので、学習意欲の喚起にも有効である。

(2)力学分野の指導について

北広西 大久保 政俊

力学分野の基礎概念を、系統的に分かりやすく指導するため、数的処理に重点を置くことなく、生徒の感性に訴えることに留意して実験を工夫し授業した。更に効果的な指導法を確立するためご検討願いたい。

(3)物理教育実態調査

=北海道内の高校生と大学生を対象として=

札開成 鶴岡 森昭

札藻岩 山田 大隆

高校生2000名に対して「理科の科目選択に関する調査」、大学生142名に対して「物理教育に関する調査」を実施した。

これらの結果は高校物理の今後の改善の方策を探る上で重要なデータとして利用できる。

〔助言〕

理科センター 檻棒 光一 氏

物理の概念をどのように形成していくかというものは重要な研究のテーマの一つです。

そのための実験方法の工夫・改善・開発という意味から、高橋、大久保両先生の発表は大変貴重であったと思います。鶴岡・山田両先生の調査は大学生まで含めたことで貴重です。新教育課程へ向けて調

査結果を活かしていただきたい。

化 学 部 会

〔講演要旨〕

21世紀を担う化学

北海道大学理学部教授 多賀 光彦 氏

化学発展の歴史から始まり、化学の果たしてきた役割を明暗とともにデータに基づき説明されるとともに21世紀を担う化学という意味では将来的には資源の利用に伴う廃棄物の再資源化の経路を確立することが課題である。

〔質疑応答〕

井上（札星園）オゾンの破壊で平衡反応であれば何故オゾンホールができるのか。

多賀 フロンガスが入ってくるとオゾンの破壊はサイクル反応でどんどん破壊される。

稻村（大麻）現在の水銀含有量は測定されているのか。

多賀 どこかで測定されていると思うが最近話は聞かない。

常丸（豊富）将来的にフロンガスによる温度効果への影響は大きくなるか。

多賀 フロンは温室効果に影響をもつが、フロンの量自体はまだ少なく、全廃の方向にあり今後増えることはない。

〔研究発表〕

①物を通しての授業

共和 大佐賀 美弦

教育困難校において、演示実験や生徒実験を中心に一年間を通しての化学授業の展開を発表された。

②環境教育を授業に取り入れることを目指して

枝幸 安部 泰彦

環境問題は多教科で扱われているが断片的にとどまり生徒はあいまいな理解で終っている。そこで化学授業で環境問題の化学的な側面に重点を置き、その理解の深化へのアプローチを発表された。

〔質疑応答〕

尾崎（札山の手）環境教育としては環境問題に視点が片寄っていたのではないか。

安部 理科の授業としては発表のような内容になると思う。さらに検討したい。

八島（恵庭南）演示実験の際のコツはあるか。試験前のプリントや補習に生徒が頼りきりになることはないか。

大佐賀 プリントに頼る子は普段やっていないので逆に点数は取れない。ノートや小テストで指導を加えている。演示実験では危険がないこと。出来るだけ多くの生徒にやらせる。時には目立たない子にやらせることもある。

吉田(滝川工業) 3年生2学期に就職が決まり授業への関心が薄れる傾向はないか。

大佐賀 困難は困難であるが演示等で集中させてくる。昨年から就職が決まっても極端な変化は見られない状況である。

[助言] 理科センター 中村 隆信 氏
授業への熱意が感じられた。実習を重んじた体験的学習はこれから重要になる。学習内容と身近な物、科学的概念との関連性に気をつければよい。化学教育における環境の柱は自然のしくみ、リサイクル(資源の再利用)、実験廃液の処理の三つである。

さらに量・質ともに充実させてほしい。

生物部会

[講演要旨]

生体防御機構

東日本学園大学薬学部教授 森 洋樹 氏

前半は以下の内容で生体防御機構全般にわたって説明していただく。

(1)免疫学・微生物学の歴史(2)異物侵入時の防御機構の概略(3)免疫に関する組織と細胞、タンパク質(4)血球の系統分化(5)生物進化と防御機構(6)抗体の種類と分子構造(7)補体の活性化(7)マクロファージの起源・分化・活性化。

後半は現在先生が研究されているマクロファージ、白血球などの細胞表面のタンパク質についての分析データとスライド写真が紹介された。しめくくりとして今日的課題の展望が述べられた。

質疑の内容は(1)マクロファージの食作用とディーゼルエンジンの毒素の関係について(2)血液型不適合を起こすRh抗原を抗体により母体から除去する方法について(3)肥満細胞とアレルギーの関係について(4)細胞共生説における免疫作用の問題について(5)胎児を異物と扱わないと胎盤の役割について、など。

[研究発表]

①地域施設との連携をはかった生物教育の実践

女満別 中島 憲

学力不振で意欲のない生徒が多いため、興味を喚起する方法として、実物教材を可能な限り演示して

見せることを柱として取り組んでいる。具体的には、畜産公社より提供してもらった牛豚の眼球や臓器を用い、実習と演示実験を行なったことでかなり効果を上げることができた。また、現在は、東京農業大学の設備を借り、光学及び電子顕微鏡による組織のスライド写真を作成中である。来年度以降は、家畜臓器の実習とあわせて組織像を示す考えである。

②身近な教材の利用による自然を見る目の涵養

平取 新井 博仁

身近な生物の事象から自然に目を向かせ、その中にいる自分自身を考えさせたい。この考えに基づき、北海道に広く自生するササ属の教材化を試みた。形態変異の測定とグラフ化、気象に関する分布図作成、各班の発表などの生徒実習に、生活史、検索方法、生活形などの講義を挿入しながら5~6時間の予定で行った。この取り組みによりササに親しみを持たせることができた。またササの環境への対応のしかたの巧みさを知ったことで、他の生物へと関心を広げさせることができた。

[助言] 理科センター 青山 慎一 氏

関連施設は今日開かれつつある。積極的に協力を依頼してみると良い。ササという身近にこんなに良い教材があったと思い知らされた。生徒を引き込む授業のすすめ方をさらに工夫していってほしい。

地学部会

[講演要旨]

天気予報のできるまで

—北海道の局地気象—

札幌管区気象台技術部予報課長 村松 照男氏

一枚の天気図には豊富な情報が盛り込まれており、そこから数々の天気のドラマを読み取ることができる。全国に張り巡らされている地上気象観測網、アメダス観測網、気象の立体構造をつかまえるための気球による高層気象観測網に加え、静止気象衛星ひまわりの雲の写真、レーダーによる降雨強度の観測データを気象庁に集め、天気図が作成されている。天気予報は、地球大気を数多くの格子にわけ、それに現在の様々な気象観測データを入れ、大気に関する様々な方程式を大型コンピューターで解き、将来の大気の状態を数値的に求める。予報管がそのデータを吟味・解釈し、統計的手法や経験を入れ発表している。しかし、降水現象は非常に複雑・微妙で確率予報で出しているのが現状である。また、エルニーニョ現象が日本に暖冬や長雨をもたらすように、

世界の空気はつながっており、実際の気象現象はもっと複雑である。

北海道は、石狩湾小低気圧、利尻島のカルマン渦など局地気象の宝庫である。また、フロンガスによるオゾン層破壊や炭酸ガス増加による地球の温暖化など、気象に関連深い環境危機が呼ばれている。このような身近な話題や地球環境問題を授業で話題にしてもらいたい、天気はまだまだ謎だらけで興味深いものだと理解してもらえばと考える。

〔質疑〕

洞爺丸台風と一昨年の台風19号の進路と被害の比較について。旭川の製紙工場周辺の雪が多い理由について。間氷期と氷期の風景のちがいについて、一昨年の台風19号が再発達した理由について。温暖化による北海道の気温の上昇度合いについて。

〔研究発表〕

同じ緯度なのに砂漠と氷河？

札静修 星野 フサ

1991年8月中旬、北京で開催された地学の国際学会に参加するため、10日間ほどの中国の旅に出かけた。北京の西方2500kmほどのウルムチでの巡査の様子を中心に、自分で撮影したビデオを見せながら解説した。

〔助言〕

地学的な物の見方考え方とは、体験を通して得られるもので、身近なことに素材を求め直接体験させることが重要である。その一方、環境教育に代表されるようなグローバルな物の見方考え方も重要である。それぞれの地域の気候や地質の特色など、地域の素材を生かした教材をテーマに地学的な見方考え方を身につけさせ、より大系的なものへ導く帰納的な考え方を育てることが、われわれの地学の教師の役目である。

保健体育部会

〔講演要旨〕

エイズ

池上 千寿子 氏

保健体育部会長町田幸雄先生より講師の紹介、講演に先立ち36項目にわたる AIDS に関するアンケート調査が行なわれた。

AIDS とは、後天性免疫不全症候群といい英語の頭文字をとる。原因是 HIV「人免疫不全ビールス」で AIDS の歴史からわかりやすく解説、当初は原因

不明から偏見、差別、対策の遅れからパニック状態になり死者、患者が爆発的に増加、日本もそうならないよう早急に手を打つ必要性があり、それは教育であると力説。

AIDS とはビールスに犯され発病した状態をさし保菌者とはちがう、検査で陰性なので安全、陽性だから危険と単純にはいえない等といった講演を聞きマスコミの影響力を知る。

AIDS は「なおりにくい感染症で恐くない」、「性の健康管理は自分でコントロールせよ」、「安全且つ楽しいセックスライフ」、性病教育は「おどしの教育は役立たず」、自分の性をコントロール出来ない者は「ダサイ人間」と世間一般からも思われる、そんな時代にならないと性病はなくならないと具体例や色々な器具を示しての大変わかりやすい、有意義で貴重な2時間の講演があつという間に過ぎ、最後に質疑応答で白糖高校の柴田教諭から3点の質問があった。

①感染者と AIDS のちがいを強調されたのはなぜか？

②治療薬は？HIV を増加させない薬は？

③血液交換等で治療できないか？

3点の質問に対し①保菌者、発病者の人権対応方法に差あり②開発中だが副作用強く、人により効果に大差、東洋医療に光明あり③血液よりもリンパ球が大きく左右等とユーモアりで簡明に回答、我々だけでなく他教科の先生方、父母、生徒にも是非聞かせたい内容の講演であり社会的にも実に適切な演題で関係者の努力に参加者一同謝意を表わし午前中の講演終了。

〔研究発表〕

本校における性教育の実践報告

興部 立川 晴也

個人の発表ではなく、学校全体の取り組みを報告するということを補足し、別紙資料にて説明。授業VTRより、LHR、古典、英語の中での性教育を紹介した。根室高校山崎教諭からの質問①他の先生の意識を知りたい一答、資料P12のように教員数が15名程度であることが共通理解できる理由かもしれない②20年以上継続できる理由を知りたい一答、各先生の熱意だと思う。③年間何時間くらい使うのか一答、LHRは各学年3～4時間程度である。

〔研究協議〕

選択体育と体育的学校行事について

本別 町田 英謙

自校の選択展開授業について、別紙資料にて説明した。選択授業のアンケート結果について解説し、

交通安全強歩大会の取り組みについて紹介した。
質疑応答、特になし。

養護部会

〔講演要旨〕

これからの中学生の養護教諭

～当面する諸課題を通して考える～

滋賀県教育委員会 保健体育科指導主事

木戸 増子 氏

10年間ナース経験をされた後、公立の小中学校において養護教諭として勤務され現在は保健体育科指導主事として御活躍中の木戸増子先生により、これからの養護教諭のあり方についてお話をいただいた。現状の問題として、①成人病の若年化や心の健康の質的、量的变化、増大など児童、生徒の健康問題が変化してきている。これらの問題に対応するために養護教諭は資質を向上させていかなくてはならない。②養護教諭養成の各コースにおいて不十分な点がある。③初任者研修、経験者研修、上級資格取得認定など一般教諭と比較した場合においても保障されていない面が多い。④子供達が21世紀をしっかりと生きていくための健康教育を養護教諭は担っていかなくてはならないが、現状ではそのための健康教育を十分にできる余裕がない。養護教諭が複数配置になる事により、たとえば保健室をあずかる人と授業のチーム・ティーチングに参加する人という具合に仕事を分担してできるのではないか。将来教員として、養護教諭として生きていく（機能していく）ためには人間関係の問題を克服し、大きな観点に立って考えていかなくてはならない。

〔研究発表〕

健康教育における養護教諭の役割

～保健室来室生徒の背景にあるもの～

女満別 野口 直美

健康診断結果及び健康に関する意識調査等を統計的に示して健康実態を浮き彫りにし、それらの実態をどの様な視点に立って把握すべきか、健康教育を実践すべきかを豊富な資料（1. 本校における生徒の実態、2. 発達理論について、3. 社会状況について）をもとに事例もあわせて実践報告があった。
1) 健康診断結果、2) 保健室利用状況、3) 煙草状況、4) 性に関する意識調査、5) 人間関係にかかる調査、以上5項目における調査のまとめの結果、生徒の健康実態はわずか7年間で様々な部分で変化している。これらの健康実態を生徒の生育歴や家庭環境の把握のみならず、加速度的に変化する社会状勢と

その中にある家庭や学校の現状を直視し、マクロな視点で対応する事が必要かと思われる。

（事例）「友人関係がうまくいかず孤立し、問題行動を繰り返すA子」

1年生の時に友人関係がうまくいかず孤立し来室を重ねるようになる。その後2年、3年において服装の乱れ（化粧、指輪、脱色）、深夜徘徊、無断早退、欠席等の問題行動を繰り返す。生育歴、家庭環境の把握さらに発達問題からのとらえを踏まえ、教頭、担任、学年、養護教諭らが役割分担をして支援し、A子は卒業する事ができた。

芸術部会

全体会

〔講演要旨〕

西洋の美・東洋の美

洋画家 国松 登 氏

文化という場合には、本質文化（政治・経済）と必要文化（教育・科学・芸術・宗教・体育）がある。

一国の文化は本質文化と必要文化が一体となって、国の文化という指針ができる。

政治が確立され、経済の安定性があって初めて必要文化がその国の力で伸びていくことができる。そして必要文化の質が高まり教育が進むと本質文化の変革まで教育の力でできるのではないかと考える。

芸術は現在多方面にわたっており、趣味から高度の専門分野まで美を愛する人たちがいる。それが数から質に変化していくのが弁証法的発展だと思う。私は質の向上への手伝いをしてきてはいるが、美術は理屈ではなく、小さい時から手や目で訓練していくことによって、人間の健全な発達の目が育つことが理想的だと思う。とかく親は進学のための科目に重点をおきがちだが、どの分野に進んでも情緒の面は大切である。教科にあるものは何一つ軽視できないという認識を教師たちが持ち、共同で仕事を進めるべきである。また文化とは何かという本質を理解し、広い文化活動の中で自分の仕事は何であるかを見極めるべきである。

日本の画壇という場合、日本画壇と洋画壇がある。日本古来の芸術と外来のものを取り入れた芸術がそれぞれに発展し、歴史的には手法は違うが構図の面で浮世絵が印象派に影響を与え、油絵では西洋の技術を持ち込んでいる。日本画は単純化して僅かのものに背後を思わせるような特異な境地があり、そのような日本画と西洋画が今の日本人の中にどのように根をおろしていくか、私はとても興味をもっている。

[研究発表]

音楽分科会

根室 斎藤 雄一

「リコーダーの授業を通しての考察」と題した研究発表がなされたが、いかにして各人がリコーダー本来の奏法・音色を身につけ、均質なアンサンブルを作り出すことができるかに主眼を置き、生徒に意欲を持たせるために、進級テストを実施している。生徒の技量によってレパートリーが増えるため、取り組みが良好である。ただ今後ずっと続けていいものかどうかは課題である、という発表内容であった。研究討議の主な内容は・ピッチをそろえる。(という学校が16校あった。)・リコーダーを持ってこさせること自体大変な学校があるが、なんとか工夫してやっている・コンピューターを取り入れている学校もある・カリキュラムに関して、単位を減らされる傾向にある・最後に、音楽Ⅰでは個性等を見るため色々なことをさせることが大切であるという助言者の言葉でしめくくった。

美術分科会

大麻 野屋敷 裕泰

「より多くの教材経験をさせる」という考えのもとに、過去10年間の年間学習の推移を示し、先生自身の貴重な実践を通して様々な工夫や成果が発表されました。

先生は「工芸」を通じて手作業の大切さや素材のおもしろさを発見させようと考えており、授業の中でも、各自に「計画・進度表」を制作させ、生徒の主体性を大切にし自ら学習する環境づくりをされています。又、生徒自身が到達目標を設定し、その到達度によって評価がなされています。将来的には地域性をいかした工芸、さらには歴史的・民族的な面に絡ませた幅広い工芸教育を目指しておられます。

まとめでは芸術教科の大切さを強調され、学校のみならず、地域への働きかけを積極的におこない、心の豊かさを広める必要があるのではないかと提案されました。

書道分科会

札東商 櫻井 敦

今年度の発表は、札幌東商業高校の櫻井敦先生により「自主的活動とその反省・改善をすることのできる授業の試行」と題して創作学習の実践報告が

行われた。内容は、生徒自らが計画を立て、それぞれが課題意識を持って、協同作品を制作するという授業の実践例である。発表の後、質疑応答となつたが、今後の課題として「他の生徒と協調することも大切だが、個性を生かし長所を伸ばす面があつてもよいのでは。」「校歌を扱ったのはよいが創作学習としてはもう少し遊びが入った方がよいのでは。」「他の生徒と協力して学習した力を自分に返し、自己を高める場の設定。」等の意見が出された。全体としては生徒が主体的に活動する授業に対し、指導がきめ細やかで大変充実したすばらしい内容だったとの声が数多く出されていた。

英語部会

[講演要旨]

“異文化コミュニケーションのための英語

—同時通訳者の体験から—

サイマル・インターナショナル代表取締役

村松 増美氏

サミットに代表される多言語会議はもとより、文化、科学技術など各界の幅広いジャンルで同時通訳者として活躍、現在その指導的立場にある同氏の講演要旨はおよそ次の通り。

- ①適度なユーモアを交えることによってメッセージの内容に新鮮味が増し、効果的に意図を相手に伝達できること。
- ②同時通訳には即時性と正確さが求められること。
これに加えて、臨場感溢れる、共感的でしかも新鮮な印象を与えていくことも極めて大切であること。
- ③概して完全な英語を話すことを目指す必要はなく、むしろ内容に重点を置いた話し方を習得するほうがはるかに重要であること。

[公開授業]

効果的なチーム・ティーチングを目指して

札幌白石 伊藤 一正 氏

石狩教育局 AET Joel Arseneau 氏

通常の授業に AET を導入し、簡単な英語を駆使しながら指導展開することにより、

- ①生徒が英語の実際に使用される言語環境にいち早く慣れて、英語を話す際の不安感、抵抗感が排除されること
- ②生徒の教材内容に対する理解が十分でない場合より客観的な個別指導ができること
- ③指導過程の各段階において、学習の個性化が一層助長されること

④JTEとAETの特性を生かした多彩な指導が可能になり、授業が活性化することなどの有効性が具体的に示された。

[パネルディスカッション]

コーディネーター	村松 増美氏
パネリスト 北星学園大学教授	船津 好平氏
北海道教育大学教授	鴻沼 誠二氏
札幌篠路高校教諭	佐々木勝志氏
札幌白石高校教諭	伊藤 一正氏
石狩教育局 AET	Joel Arseneau 氏

[提言要旨]

西欧に学んで、急速に近代化を図るための手段となった我が国の英語教育の内容と方法を、地球時代の進展著しい現在、受信型から発信型に再編することが緊要である。この視点に立った提言内容はおよそ次の通りである。

- ①文法訳読中心主義から authentic communication へ質的指導の転換を図ること。
- ②日本文化の特質と問題点を見定め、これを諸外国の人々に英語で伝えていく技能と異文化理解に積極的な態度を養いながら、communication gap を埋めていくこと。
- ③異文化交流の深まりに伴う価値意識の多様化に対し譲歩と寛容さを合わせ持つこと。
- ④異文化相互間にある画一的発想を打破し地球市民として、英語をベースに共通なコミュニケーション規則を創造していくこと。

家庭部会

[講演要旨]

男女必修家庭科の実施に向けての課題

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官
河野 公子 氏

告示を行なったところ大多数が賛成であった家庭科男女必修は、実際に教育課程を編成する段階になって学校5日制の問題と関連して履修が困難な状況にあることが一部では聞かれる。生き方暮らし方についての学習は家庭科ならではのものであって、目前の学力のみに重きをおいた教育は狭い考え方であると思う。社会の変化や生徒の実態について各種資料を提示しながら、説得してもさらに「それでも家庭科は必要ない」と言うことのできる教師はいないのではないかだろうか。高校教育3年間80単位ちょっとのうちの4単位といえば本当に僅かであるが、人生80年時代において4単位の家庭科教育は非常に大きな役割を担っているのである。学習指導要領の解釈に

こだわった議論をしているとなかなか理解が得られない。

一時期、新聞紙面に「現行において女子生徒すら4単位を実施していない学校の例」が報道され、「文部省の指導が柔軟になった（あまりやらなくても良くなるのではないか）」といううわさが世間にぎわせたが、そのようなことは決してありえないことである。昨年12月25日にも大蔵省の理解を得て、31億の施設設備に関する予算がついた。これで「施設設備が完備していないので4単位履修ができない」という学校は解消されるものと思われる。

今回の改定の趣旨を良くふまえ、全教職員の共通理解のもとに新しい家庭科教育を創造して頂きたいと思う。

[質疑応答]

- ・教育課程の編成に関する大規模校の教職員への理解について
- ・市町村立の教育委員会への指導の徹底について
- ・家庭科教員と教職員定数の措置について

[研究発表]

楽しく、積極的に取り組める

ホームプロジェクト、学校家庭クラブの試み
中頓別農 福本 智子

我校のホームプロジェクト、

学校家庭クラブ活動の状況

名寄 田畠 優香里

「主体的な学習態度を育てる家庭科教育」というテーマで研究発表が行なわれた。それぞれの生徒の実態や地域の要請に応じた個性的かつ意欲的な発表で、実践の成果がみられていた。

[質疑応答]

- ・授業後の生徒の変化について
- ・農業クラブと家庭クラブのかかわり
- ・必修4単位の獲得

農業部会

[講演要旨]

先端技術（生物工学）の現状と将来方向

北海道中央農業試験場生物工学部長
関谷 長昭氏

バイオテクノロジーは急速に進歩し、作物の生産性とその安定性を飛躍的に高め得る可能性をもつようになった。

そこで道立農試の取り組んでいる研究概要とその

ねらいをスライドを使い紹介された。

細胞・組織培養：育種の分野では、花ユリの胚培養、小麦の薬培養により品種改良の効率化の支援、水稻の薬培養の効率化で成果をあげている。基礎研究としては豆類、馬鈴薯の細胞や組織から植物を再生させる再分化に取り組み、又馬鈴薯は、遺伝資源の効率的保存の組織培養による長期保存技術を研究している。

遺伝子操作：てん菜のそろ根病は、ウイルスによって起こされる土壤伝染病であり、農薬では防除が困難なため病原ウイルスの遺伝子解析を行ない、有効な弱毒ウイルスを作り、圃場試験などを行なっている。基礎研究では遺伝子操作技術を利用して形質転換作物を作る研究をしており、農業上の有用形質関連遺伝子を操作できる段階に入った。

研究は多くの分野で実用化技術を世に出せる迄にはもう少し時間がかかる。又、生物工学部と他部門との密接な連携が必要になる。

生産現場では、バイオテクノロジー関連技術が地域の他産業技術と有機的に結びついてこそ、本来の力を出せるものと思う。

[研究発表]

「生物工学基礎」の指導方法について

余市 田口 晴男

余市高校でも時代の進展に対応して教育課程の編成や教育内容の見直しをし、3年度より「生物工学基礎」を実施している。この科目的目標や指導内容など、自校の取り組みの中から課題としてどのようなものがあるか、又、道内各学校の展開方法と指導体制を調査した。限られた予算、施設、設備のなかでの創意工夫にも限界を感じるが、多くの生徒が、感動しバイオテクノロジーに興味、関心を持たせることが出来るように学習内容と指導方法を工夫、改善してゆきたい。

[研究協議]

各学校の基礎の範囲、単位数、指導体制、農場とのかかわり、施設や予算、安全指導について実情報告を中心とした情報交換を行なった。

[助言]

1. バイオは農業を発展させる重要な技術であり、生徒の関心や反応、思考力養成に役立っている。反面、①予算不足、②よい指導者がいない。③良い教科書がない④教材の確保が困難。⑤地域性に見合った教材が見当らない。⑥食品、植物との関係がうまくいかない等、たくさんのがある。

2. 生物工学が普及した要因としては、

- ①ウイルスフリーの苗がつくられたこと。
- ②クローリング植物が大量に生産できること等があげられる。

3. 安全面については教科、科目にあった安全性を行なうべきである。又、設備については62年度から順次整備されてきてくる。

4. 科目として生徒の興味、関心が高く、指導段階（学習段階）としては、①実験・実習を通して興味、関心を高めること。②学習内容を深化充実すること。③技術の習熟と課題解決能力をそだてることが大切である。

5. 「生物工学基礎があり、それぞれ科目の中にもバイオテクノロジーという分野が入ってきてている。各学校でバイオをどの程度、どんな形、目標で学習させるかによって、何単位にするかということになり、教育課程全体を見て正しく位置づけていくことが必要である。

6. 学習教材を選ぶとき

- ①基本的な学習を進めるのに取り組みやすいもの。
- ②そして応用発展の教材へ入り、生産まで結びつけられるもの。③地域性のある教材を選ぶ。④種苗法と特許法について十分注意し、増殖に取り組むことも大切である。

7. 生理生態を学習し、その上にたって、バイオの技術が使われなければならない。

今日問題になっているのは順化する事ではないか。又、バイオは農学技術の一環として農業生産と結びつけながら考える必要がある。

商 業 部 会

全 体 部 会

[全体講演]

今後における商業教育の在り方について

札幌大学名誉教授 横川 義雄氏

今後の商業教育の目指すべき新しい方向を考えるとき、1992年以降における経済動向を顧みる必要がある。第3次産業の比重は過去・現在・未来にわたって着実に拡大し、経済のソフト化・サービス化が進み第1次・第2次産業にも波及していくものとみられる。また、バブル経済の解決のためには産業構造の変化にも着目しなければならない。さらに販売、事務、管理的職業、専門的・技術的職業、サービス職業等も情報部門やサービス部門を中心に急速な伸びが予測される。これらの展望からみて、商業教育はこれから拡大し進展していく産業や職業ないし職務の担い手を養成する職業教育として期待されてい

る。国際経済社会の分野では日本もボーダーレス時代に入ってきた。国境のない産業の連携を考えると、諸外国の貿易体制の在り方や通商上の情報収集が大切になってきている。経済のボーダーレス化、情報化、サービス化が進行するなかで、①多様化への対応②経済のソフト化と高度な技術の導入③生産資金の流れ④ソフトとハードの融合⑤不動産・株式・資金・金融の価値の減少等、経済活動の変化を見極めながら商業教育の目指す方向を考えていかなければならぬ。

商業教育の柱は①流通経済②国際経済③簿記と会計④情報処理⑤総合実践と課題研究であり、この5本柱のなかに創造性と個性をどう發揮したらよいか考えるとき、多くの課題が生れてくる。例えば、流通経済におけるコミュニケーションの導入である。コミュニケーションは取引上重要な要素である。情報処理では経営活動のなかに情報通信技術の進展によって人事、財務、マーケティングの分野でコンピューターシステムが導入されている。

今後の商業教育の課題は、商業の諸活動のなかで思考力、判断力、問題解決力、調整力などをどう育てるかである。教育課程審議会の答申では、これから商業教育では、サービス経済化、国際化、流通化への対応と商業の各分野における中堅管理者の養成および経営活動を主体的・合理的に行う能力の育成、経済社会の発展に寄与する態度などが求められている。経営活動を主体的・合理的に行う能力とは一つの経営戦略を立て目標達成のため、個々の思考力とか判断力、調整力を働かせることである。この能力をどうつけるか。それは一人ひとりの力を組織の中で尊重することである。そこに自らモノを考えるという自発性が生れてくる。個性の問題を考えるとき組織の中における個人を大切にする教育が望ましい。また、合理性は目標を達成するために、その目標に向かって真っ直ぐ進んでいくことであり、商業教育において極めて重要である。

最後に、今後の北海道における商業教育の発展のための提言として①学校・学科の特色ある教育を目指し、中学校の進路指導との連携を図る②卒業後の就職・大学進学における産業界の理解を求める啓蒙活動③校内における研究と修養、情報の交換を活発にする商業教育研修会の設置④理論的・実践的研究を経ての教員養成の重要性などの課題に積極的に取り組んでいただきたい。

第1分科会 一教育課程一

〔研究発表〕

地域と時代の要請に応じた商業教育を求めて

—小学科に向けた本校の取り組み—

釧路商業 川島 敏裕

来年度創立40周年を迎えるにあたり、商業科6間口、情報処理科2間口とすることになった。地域の産業構造の変化と札幌にできる総合学科を考慮しながら、本校は地域の未来を担う職業人育成充実のために設置することにした。商業科、情報処理科とも魅力と特色のある学科をめざし、学校全体で、教育課程検討委員会、教科主任会議、商業科内部の研修グループとして情報処理系、流通経済系、商業系に分けて検討した。また新制服も制定し、入試には全員面接を実施することにした。

〔質疑応答〕

「根室」課題研究を情報処理科にのみ履修させる理由は何か？

「川島」商業科の教育課程は検討中である。

「富良野」小学科設置に伴う施設設備の内容は？

「川島」必要な施設設備について道をはじめ関係機関に要望している。

「啓北」①学校裁量時間の活用。②家庭一般の指導内容。③選択英語は進学目的か。④産振基準変更の内容。

「川島」①土曜休日との振替。②生産技術等は行わない。③進学対策ではない。

「助言者」基準は学科ではなく、履修科目に変更になった。

「指導主事」財政問題とのからみで解決に努力する。

〔協議題〕

本校における教育課程の編成

旭川商 前川 紘儀

(1) 提言要旨

学校の特色、生徒の特性、進路目標を配慮した教育課程の編成に取組んでいる現況の説明と生徒に専門性を身につけさせる工夫と教師の研修姿勢の大切さを訴えた提言であった。

(2) 深川東商木村教諭より小学科設置への取組と現状の報告があり、生徒がいきいきと学んでいる様子が語られた。

(3) 助言者（三浦教頭）

今後の職業教育は①情報化に伴うもの。②課題解決である。商業科の指導の方向として、生徒の実態に配慮して指導方針の確立が必要である。今後の社会は公的資格が重視されていく。商業教育は、産業構造の変化に応じて内容が変化している実態を中学校、地域へPRし理解を求めていく努力が必要であ

る。

(4)助言者（小関校長）

今後の商業科において、実用的な英語教育が大切である。又、進学に対応の出来る商業科としての教育課程の編成が必要である。

学校5日制は、校内で対応して大筋でまとまつたものから実施していくべきである。

第2分科会 - OA機器関連科目 -

[研究発表]

新科目「情報処理」の指導内容・方法について

新科目「情報処理」の目的の一つでもある「データシステム処理」を中心に学習させることが重要である。また、3単位の授業時数に合わせ、指導内容の一部は削除している。平成7年度より言語が「旧COBOL」から「COBOL 85」に変更になることを考慮し、「COBOL 85」で指導を開始している。指導における課題として以下の3点が挙げられる。

- ① ハードウェア、ソフトウェアの整備推進。
- ② 教科書の精選。
- ③ 指導者の研修。

[質疑応答]

○苦小牧総合経済

「旧COBOL」と「COBOL 85」の大きな変更点は何か？また、検定3級を考えたとき年間指導計画の順番を変えた方がいいのではないか？

応答

別紙を参照してほしい。順番は本校で考えた指導方法である。

記録者

構造化プログラムが可能になることが大きな変更点ではないか。

○北都商業-藤塚

指導内容の時間数の配分が偏っていないか？

応答

実施しているが差し支えない。

○江差南-吉本

指導内容の中で「図形処理」を削除しているが、生徒が一番興味を引くところであるが、その点はどうか？

応答

学習の動機付けとしては利用していない

○北都商業-藤塚

評価はどのようにになっているか？

応答

作品の提出が中心となっている。

○司会者

「COBOL 85」をすでに指導している学校があれば報告してほしい。

○千歳一高橋

昨年4月より開始している。また、文書処理は他の教科でしている。

○室蘭商業-沢田

教員研修を実施している。

○瀬棚-沢田

1~2年で実施している。

○芦別総合

情報処理とプログラミングを並列で授業展開をしているが可能なのか？

応答

他の学科のことなので、今回は流通経済学科についての発表である。

[協議題]

ネットワークを活用した商業教育について

LANシステムを活用し、生徒に合わせた演習を行い、新科目の「情報処理」や「総合実践」などの科目で利用している。

[質疑応答]

○瀬棚-難波

他校でのネットワーク利用方法を報告してもらいたい。

○芦別総合-高橋

ファクシミリを使用しているが発表校ほどのものではない。

○江差南-吉本

昨年4月より総合実践で使用している。来年はパソコン通信を利用したい。

○帶広南-上杉

パソコンを使用することにより、生徒の間違いが少なく評価が難しくスピードの差だけで評価せざるをえない。

○助言者-政田

何れも商業科としての特徴を考えたものであり、専門性を活かしての内容であった。社会の動向に合わせ、より実践的な指導を、また生徒が自立できるような指導を希望したい。

○助言者-大西

平成7年度までにセンターとしても「COBOL 85」のソフトを準備してゆくので大いに利用願いたい。また、LANについても上手に利用していると思われるが、ソフトの使い方についてモラルを十分に考慮してもらいたい。

最後に

- ①社会や産業界の動向を踏まえた教育課程の編成、指導
 - ②実際の社会活動に関係が深い内容
 - ③生徒の実態及び学科の目標に合わせて精選
 - ④情報を収集して処理する能力の育成
- 等々各学校の実態に合った最良のものを創りあげてほしい。

第3分科会 課題研究

〔研究発表〕

本校における課題研究について

福島商業 阿部 和保

- ・課題研究の経緯…1年間の準備期間を経て、平成4年度より3年生男子のみ2単位で実施。①資格取得学習（簿記、商業経済）②地場産業の研究（漁業、林業）を中心とすすめる。
 - ・計画の内容…1学期は資格取得学習、2学期よりテーマを決め地場産業の研究を実施する。
 - ・実施して…地場産業の体験学習を通して意外な生徒の個性がみられた。
 - ・今後の予定…生徒の発表したレポート、スライドを作成してまとめる。
- 説明後ビデオで研修の様子を視聴する。

〔協議〕

本校における課題研究の取組みについて

仁木商業 蛭川 雅恒

平成3年度より3年生において2単位で実施、資格取得に重点を置き商業科目を実施していたが、平成5年度には商業研究の講座を設けて調査、研究を試みる。

〈各校の状況〉

・テーマの設定について

(北見商業) …オリエンテーション（質問を生徒から出してもらい多くの時間を使う、生徒の希望するものを重視する）に時間をかける。推進委員を中心にテーマは生徒自身で設定する。

(苫小牧総合) …調査分野で実施。

(士別商業) …職場体験を中心に実施。

・指導体制について

(士別商業) …商業科の全職員。

(北見商業) …生徒の要望にできるだけこたえてゆく、商業科以外の先生にも協力してもらっている。

(苫小牧総合) …商業科の教員と実習助手。

・評価について

(士別商業) …班と個人の評価、普段の取組みを見る。企業の評価も参考にする。

(北見商業) …担当者だけでなく全員で調整し評価する。

(苫小牧総合) …全体で基準を決め評価、個人と班と総合評価をおこなう。

〔助言〕

課題研究を学校としてどうとらえたらよいかをもう一度考えてほしい。福島商業のレポートで生徒の潜在性を見たことは素晴らしいと思う。推進委員が提供した資料を参考にし応用して、課題研究をとおして生徒を理解して下さい。

体験するということを忘がちであった商業に必要があって課題研究が入ったと思う。色々な事を解決していく力を重視して、教師も原点に戻って考え、体験をとおして、生徒に夢とロマンを持って行動してほしい。

水産部会

〔講演要旨〕

水産教育の現状と課題

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官

中谷 三男氏

①水産教育の現状と動向

産業教育フェアが好評のうちにに行なわれ、水産教育に対する関心も高まってきた。一方、乗船実習における乗組員担任制など安全性の確保が重視されている。また、学校5日制への対応（特に実習船に関して）、新教育課程への対応、総合制学科の新設、産振基準の見直し等多くの課題に直面している。

②新学習指導要領と課題

新学習指導要領の実施を2年後に控え、生徒の多様化と減少時代への対応、画一化から個性重視の教育の展開、海洋の多様化への対応、社会の変化に主体的に対応した教育課程の編成、資格への対応が必要であり、海技資格に関しては、イ) 三級海技士第一種養成施設における席上課程と乗船実習の教育内容の整合 ロ) 五級海技士第一種養成施設における小型船舶操縦士資格に関する免除、ハ) 小型船舶操縦士受講年齢の引き下げ及びA型試験艇の長さの緩和等の懸案がある。

〔研修報告〕

次の三名による研修報告があった。

①産業教育指導養成講座

対馬 敏幸（函館水高）

- ②平成4年度高等学校産業教育担当教員長期実技研修
高嶋 一成（小樽水高）
- ③平成3年度高等学校産業教育担当教員長期実技研修
高橋 篤（小樽水高）

[研究発表]

①新設科目「水産食品流通」の内容及び指導法はいかにあるべきか。函館水 千田 裕

②新設科目「水産情報技術」の指導内容、指導方法はいかにあるべきか。小樽水 枝山美津彦

③新設科目「課題研究」の指導内容、指導方法はいかにあるべきか。小樽水 我妻 雅夫

上記三件の研究発表があり、その後質疑応答が行われ、POSシステムのモデルの導入、データ通信

の小型モデルの構成等について活発な話し合いが行なわれた。

[講評]

- ①課題研究の評価については、知識や技術、理解の他自主性、持続性、責任感などプロセスが重要。
- ②教育課程の編成は、地域の状況、生徒の実態に合わせて編成する必要がある。
- ③家庭科に関しては、職業資格を目指す場合の単位減は慎重にしてほしい。
- ④道は教育環境の充実、研修の場の整備、産振基準の充足率の向上など職業教育の基盤整備のため積極的に取組んでいる。



北海道高等学校教育研究会会則

第1章 総 則

第1条 (名称) 本会は北海道高等学校教育研究会という。

第2条 (事務局) 本会の事務局は会長の所属校に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目的) 本会は高等学校の各教科などに関する事項を研究し、会員相互の研修と識見の向上につとめ、高等学校教育の振興を図ることを目的とする。

第4条 (事業) 本会は前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1 研究会の開催 | 3 機関誌の発行 |
| 2 講習会、講演会の開催 | 4 その他本会の目的達成に必要と認められる事業 |

第3章 組織および役員

第5条 (会員) 本会の会員は北海道高等学校職員、教育委員会職員および高等学校教育に関心を有するものをもって構成し、一人一部会とする。

第6条 (教科部会) 第4条の事業を遂行するために教科部会を置く。この部会の運営は別に定める。

第7条 (地区支部) 地区支部は北海道高等学校長協会の支部単位とする。この部会の運営は別に定める。

第8条 (役員) 本会に次の役員を置く。

- | | | | |
|-------|----|---------|-----|
| 1 会長 | 1人 | 4 地区支部長 | 若干人 |
| 2 副会長 | 3人 | 5 教科部会長 | 若干人 |
| 3 監事 | 3人 | 6 顧問 | 問 |

第9条 (役員の選任) 会長、副会長および監事は教科部会長および地区支部長により選任し、顧問は推薦することがある。

- 1 教科部会長は各教科の部会から1人を選任する。
- 2 地区支部長は各地区ごとに1人を選任する。

第10条 (会長、副会長の職務権限) 会長は本会を代表し、会務を統括し、会の責任を負う。副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。

第11条 (教科部会長の職務権限) 教科部会長は各部会を代表する。

第12条 (地区支部長の職務権限) 地区支部長は各地区を代表する。

第13条 (監事の職務権限) 監事は本会の業務、会計を監査する。

第14条 (役員の任期) 役員の任期は2年とする。ただし重任することができる。

第15条 (役員会) 役員会は毎年1回定期に行ない会長が召集する。ただし必要に応じ臨機に開催することができる。役員会で討議する事項は次の通りとする。

- 1 予算および決算
- 2 会則の変更
- 3 その他重要事項

第16条 (経費) この会の経費は会員の納める会費およびその他の収入をもってこれに当てる。会費の徴収細則は別に定める。

第17条 (会計年度) この会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌3月31日に終わる。

付 則 本則は昭和38年5月25日より施行する。